

新年度のご挨拶

2019年4月1日

NOC アウトソーシング&コンサルティング株式会社

NOC テクノソリューションズ株式会社

社長 池松 邦彦

「新事業年度を迎えて一初心忘るべからず」

平素は弊社サービスをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。
新しい事業年度を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年度は働き方改革の推進が後押しとなり、アウトソーシングという考え方がさらに広く知れ渡ることとなりました。弊社のサービスにつきましても数多くのお問合せをいただき、厚く御礼申し上げます。

より一層お客様にご満足いただけるよう、今後のNOCグループがご提供するサービスの方向性についてご説明いたします。

弊社のビジョンである「課題解決 NO.1 アウトソーサー」とは、具体的にはどのような課題解決をお客様に提供すべきなのか、改めて考えてみました。

NOCの強みとしては、

- ・お客様に対して様々なアウトソーシングを提案できること
 - ・コンサルティングによって本質的な課題解決を提案できること
 - ・RPA やシステム開発によって自動化を提案できること
 - ・オペレーション品質の高さによって通常得られないサービス価値を提供できること
- などがあげられます。

こうした「課題解決 NO.1 アウトソーサー」の強みを一層強化するために、本年度はオペレーション部門の量と質の強化を第一に考えてまいります。そのためにオペレーション部門での人材強化や業務分析・設計の質の強化、またRPAやAI-OCRを全ての業務に積極的に導入し、業務の生産性向上や効率化を図ります。

さらに、グループ会社でありITソリューションを包括的にご提供するNOCテクノソリューションズにおいても、さらなる成長に向け、営業体制・IT環境の開発運用体制の強化をはじめ、業務効率化のための業務システムの見直し等を

行います。これらのサービスや施策をお互いに連携させ、優先順位をつけて実行していくことによって、NOCグループは、これまで以上に皆様の信頼に応えられる会社になれると確信しております。

さて、私自身は昨年7月からNOCグループの社長に就任しておりますが、自身を振り返ってみますと、まだまだ器の小さな人間であり、適切なリーダーシップを発揮できていなかったという忸怩たる思いがあります。「初心忘るべからず」、就任した時の原点に立ち返り、改めて奮闘努力をしてみたいと思います。

さてこの「初心忘るべからず」とは、室町時代に能を大成した世阿弥（ぜあみ）の言葉ですが、著書『花鏡（かきょう）』の中で、芸事の奥義として次のようなことを述べています。

是非の初心忘るべからず

時々（じじ）の初心忘るべからず

老後の初心忘るべからず

初心とは、何かを始めたころの感動や純粋な気持ちではなく、実は「人生の成長の段階ごとに経験する芸の未熟さ」のことです。この最初の句の意味は、若い時は未熟で失敗するが、その失敗をした初心を忘れなければ芸は上達するということです。次の句は、働き盛りから老年に至る前まで、その時々々の初心を忘れなければ芸は上達する。第三句は、老人には老人にふさわしい芸を覚えることが老後の初心の芸である、というような意味です。一生涯、向上心と不断の努力をしていけば、人間の成長はこれで終わりということはない、という意味だと思えます。もちろん、その時々々に遭遇する初心（つまり人格や能力の未熟さ）は年齢や立場によって違いますが、社長もベテラン社員もそして若い社員も、その時々々の初心を忘れずに、日に新たな気持ちを持って努力を積み重ねていくべきだと私は考えています。

まずは私自身が年齢と立場にふさわしい魅力的な人格を形成し、ビジョンを実現するために、率先垂範を心がけてまいります。

社員一丸となって、初心を忘れずにビジョン達成に向けて力を合わせ、チームNOCによって「課題解決 NO.1 アウトソーサー」を必ず実現するところにお約束いたします。

本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。